

平成18年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立野々市明倫高等学校
2007年3月20日

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
1 授業の改善に努め粘り強い指導をすることにより授業内容を理解させるとともに、成就感を体得させ、基礎学力の定着と向上を図る。	① 研究授業の内部制度化により、教員の自己研鑽の機会を確保し、授業の改善及び充実を図る。	年間に実施した研究授業の回数が A 30回以上 B 20回以上 C 10回以上 D 10回未満	B	概ね良好と思われる。次年度も同様な達成度判断基準で実施するが、内容をより充実させたい。
	② 「Just do it」の定期的な点検と個人面談を通して、学習習慣の定着を図る。1・2年生は2時間以上、3年生は3時間以上の学習時間を確保する	各クラスの平均家庭学習時間が、1・2年生は2時間以上、3年生は3時間以上確保されている。 A 50%以上 B 40%以上 C 30%以上 D 30%未満 が確保している	B	家庭学習時間の個人差がどんどん広がっている。授業を大切にするためにも、教科によっては予習が必要であり、家庭学習に重きをおいた授業のあり方を考えなければならない。
	③ 追試等の充実により、基礎学力の向上を図るとともに、進路情報の提供を通して、国公立大学への受験数を増やすことで、国公立大学への合格率を高める。	国公立大学希望者の合格率が A 25%以上 B 20%以上 C 15%以上 D 10%以上 E 合格率が10%未満	B	最終的な国公立受験希望者が減るため合格率があがり、目標の達成基準としてはふさわしくない。達成基準を合格実数に変えたい。
	④ 平日及び夏季補習の充実により、学力の向上をはかり、大学入試センター試験における得点率の向上を目指す。	センター試験の得点、65%以上の生徒が A 30人以上 B 25人以上 C 20人以上 D 20人未満	D	生徒が意欲的に取り組めるような補習内容を工夫するとともに、補習参加希望者は必ず出席するよう指導する。 可能性がある生徒をしぼって指導するのも得点を上げる方法のひとつか。
		土曜補習の内容に満足している生徒が A 受講生徒数の70%以上 B 受講生徒数の60%以上 C 受講生徒数の50%以上 D 受講生徒数の50%未満	A	参加申込者が全員参加するように指導するとともに、各教科で内容を検討し、より効果的な方法を工夫することが必要である。
⑤ 授業における情報機器の効果的な活用を工夫し、生徒の理解を促進する。	A 授業で情報機器を数多く使用し、生徒の理解が深まった。 B 授業で情報機器を使用し、生徒の関心が深まった。 C 授業で情報機器を使用したが見えなかった。 D 授業で情報機器を全く使用しなかった。	A4点, B3点, C2点, D1点 とした平均値 1.61	情報機器を授業に使いにくい教科もあってこのような結果になっている。来年度は情報機器の使いやすい環境作りに努める。	

	⑥	主体的・創造的な力の育成のため「総合的な学習の時間」を活用する。	積極的に考え、討論、発表できる生徒が A ほとんどである B 多い C 約半数である D 一部である	A4点,B3点,C2点,D1点 とした平均値 1.71	受講するばかりで、討論や発表する機会が少ないようである。
	⑦	「Just do it」の定期的な点検を通して、学習状況や生活状況の把握に努めるとともに適時・適切な指導を行う。	提出を支えた回数 A 毎日 B 週2回 C 週1回 D 不定期	各クラスでA4点,B3点,C2点,D1点 とした平均値 2.92	クラスにより、指導の程度に差があった。本校独自の生活記録「Just do it」については、内容を含めて、全員で見直す必要がある。
	⑧	年間2回程度の生徒による授業評価を行い継続的な授業改善に努めるとともに、自己目標の設定および軌道修正に資する。	日常の授業展開や内容の各項目について A そう思う B 概ねそう思う C あまりそう思わない D 全くそう思わない	全教科・全科目の各評価項目について、A4点,B3点,C2点,D1点とした平均値 2.55	達成度判断基準がわかりにくいので、次年度は次の通りに変更したい。 生徒による授業評価を通して、授業改善が A おおいになされた B なされた C あまりなされなかった D なされなかった
2	①	生徒の進路指向の推移を的確に把握し、進路ガイダンスの充実を図る。	学年別進路ガイダンスの実施と A 進路通信発行5回以上であった。 B 進路通信発行3回以上であった。 C 進路通信発行1回以上であった。 D 進路通信未発行であった。	A	進路指導課と連携し、毎月1回、学年通信と一緒に進路通信を発行した。 学年全体での話が多いので、進路別など小さいグループに分けて、生徒にインパクトを与えるよう工夫する。
			生徒に対する進路指導が A 適切で成果もあがっている。 B 適切であるが、成果は十分とはいえない。 C 十分行われているとは言えず、成果も不十分である。 D どんな指導が行われているのか分からない。		
	②	地域で活躍する人や先輩による講話を通して視野を広げるとともに、自分の人生設計について考えさせる。	地域で活躍する人や先輩との交流により視野を広げ、人生について考えるようになった生徒が A ほとんどである。 B 多い。 C 約半数である。 D 一部である。	各クラスでA4点,B3点,C2点,D1点 とした平均値 2.33	講話等の前に生徒に対しての意識づけが大切であると思う。何も考えないで参加している生徒が多い。
			③	将来を真摯に考え、進路目標の確立を図るため、定期的な進路情報の提供に努める。	進路情報提供のための印刷物を A 1ヶ月に2回発行している。 B 1ヶ月に1回発行している。 C 2ヶ月に1回発行している。 D 定期的な発行はなく、話題があった時だけ発行している。

		自分の進路について A 常に真剣に考えることができた。 B 概ね真剣に考えることができた。 C 場合によって真剣に考えることができた D いつも真剣に考えることができなかった。	各クラスで A4点, B3点, C2点, D1点とした平均値 2.92	面談時のアドバイスや、学年集会での進路講話を通して、概ね自分の進路について、真剣に考えるようになった。 進路についてはもう少し早めに生徒に意識させることが必要である。	
	④ 個人面談の充実による的確な生徒理解に努め、生徒の望ましい自己実のための進路指導を行う。	生徒1人に対する面談回数を A 年平均5回実施した。 B 年平均4回実施した。 C 年平均3回実施した。 D 年平均2回実施した。	各クラス担任で A4点, B3点, C2点, D1点とした平均値 3.71	計5回の面談を行うことができたが、模試結果あわせたタイムリーな面談ができなかった。 生徒の望ましい自己実現のための進路指導を達成できた。しかし、早期に進路が内定した生徒への対応が不十分で、その意識形成のための面談が必要である。 面談時、教師の一方的な話でなく、生徒自身から多くの言葉を引き出せるような姿勢が保たれるとよい。	
	⑤ 生徒の心の糧となるような書物や情報を紹介する。	図書館便りを A 1ヶ月に1回発行している。 B 2ヶ月に1回発行している。 C 3ヶ月に1回発行している。 D 定期的な発行はできていない。	D	後期に図書館司書が産休に入り、定期的な発行ができなかった。	
	⑥ 学年との緊密な連携に基づく教育相談の一層の充実をめざす。	A 定例会ばかりでなく、必要に応じて開催し、職員会議などで報告をする。 B 年間5回の定例会の他、職員会議などで適宜報告をする。 C 年間5回の定例会を開催する。 D 各学期1回開催する。	A	判定は十分良好だが、重要な活動であるので、次年度も引き続きこの基準で行いたい。ただ、参加してもらう人の範囲を広げようと考えている。	
3	部活動・生徒会活動ボランティア活動等を奨励し、体験的な活動を通して豊かな人間性を育み、たくましい人間を育てる	① 学校の教育活動についての理解を得るため、総会、学年別懇談会等のPTA主催行事に積極的な参加をしてもらう	総会又学年別懇談会に於ける保護者の参加率 A 40%以上。 B 30%以上。 C 20%以上。 D 20%未満。 「朝の挨拶運動」における保護者の参加率参加率 A 40%以上 B 30%以上 C 20%以上 D 20%未満	B A	より多くの保護者に参加していただく方法のひとつとして、講演会などを行ってはどうか。 もっともっと保護者に意識を高めてもらう方策を考えたい。 次年度以降は通常業務に移行しながらもさらなる充実に努め、伝統的行事として定着させたい。 自分のクラスの保護者が参加する場合は、担任も参加すべきであると思う。
		② ボランティア活動をはじめとした諸活動への自発的な参加を促進する。	ボランティア活動等の諸活動に A 年3回以上参加している。 B 年2回以上参加している。 C 年1回以上参加している。 D 参加していない。	各生徒で A4点, B3点, C2点, D1点とした平均値 1.44	自発的な活動なだけに、指導がなかなか難しい。次年度も奨励していきたい。

③ 部活動を通じた人間形成を重視する観点から、部活動の加入率を向上させ、学校全体の活性化を図る。	部活動加入率が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	B	勉強や試験等で生徒には活動に参加する余裕がなかなかないのではないかと。 来年度もこのままの達成基準でいきたい。
	毎日の生活の中で部活動の存在は A 非常に意義がある。 B ある程度意義がある。 C 意義があるかどうか分からない。 D 特別意義はない。	A4点, B3点, C2点, D1点 とした平均値 3.50	ほぼ達成された。来年度はこのままの基準でいきたい。9月で3年生のほとんどが部活をしていないため、評価実施は6月とする。
④ 開学以来の全員一斉清掃の意義を理解・認識させ、美化・清掃の徹底を図る。	A 常に監督箇所に出向き十分に指導、点検している。 B 監督箇所に出向き点検しているが、生徒の指導は十分ではない。 C たまに、監督箇所に出向き点検はしている。 D 点検・指導は十分にしていない。	A4点, B3点, C2点, D1点 とした平均値 3.67	清掃に対する生徒の取り組みや教員の指導にややバラつきが見られる。新入生オリエンテーションや職員会議などで共通理解を図る一方、全生徒に一斉清掃の意義を理解・認識させることが重要である。
⑤ 学校の危機安全管理を徹底し、教育活動下における事故の防止と発生時の対応に万全を期す。	教育活動下での不慮の事故の防止や対処に A 常に気を配っている。 B 授業中・部活動中の局面においてのみ気を配っている。 C 注意があったときのみで、あまり気を配っていない。 D 全く気を配っていない。	A4点, B3点, C2点, D1点 とした平均値 3.53	ほとんどの教員が教育活動下での不慮の事故の防止や対処に気を配っている。救急法講習も行っており、不測の事態に備えている。
⑥ 図書室が利用しやすいように、整理・整備し、生徒の利用を促進する。	通常1日の昼休み・放課後の入館者数が A 120名以上である。 B 100名以上である。 C 80名以上である。 D 80名未満である。	A	前期は放課後補習や部活動で入館者数がのびなかった、後期は3年生を中心に自習する生徒も含めとても多かった。読書の推進を工夫して次年度は前期から入館者数を増やしたい。
⑦ 予防的援助活動に積極的に取り組み、生徒理解を深める。	A 相談室主導の活動だけでなく、クラス担任にも実施してもらう。 B 3学年とも複数回実施する。 C 1年は2回だが、他学年は1回だけ実施する。 D 1年は2回だが、他は2・3年のどちらかが実施	B	グループエンカウンターについて今年度は、LH年間計画に3学年とも1回ずつしか組み込まず、複数回行うのが困難だった。次年度はぜひ、せめて1年生は2回入れたい。